

## 「働く」を考えよう!

### 平成21年度 ワーク・ライフ・バランス講演会

#### 「これからの人事戦略とは」

日本でのワーク・ライフ・バランス研究者として第一人者の大沢真知子教授に、世界各国の企業を取材した豊富な経験とご自身の体験を踏まえながら、日本企業に適したワーク・ライフ・バランス、これからの時代に求められる人事戦略についてお話しいたします。

- ◆日時 11月4日(水) 午後1時30分~4時
- ◆会場 沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ 彩海の間(2F)
- ◆講演 「日本流ワーク・ライフ・バランス」  
~新しい人事戦略で、企業価値を高める~
- ◆講師 大沢 真知子氏(日本女子大学教授)
- ◆定員 100名 どなたでも参加できます。入場無料
- ◆問合せ先 県雇用労政課  
☎098-866-2366

### オープンキャンパスを開催します!

浦添職業能力開発校で実施している職業訓練科目の授業・実習風景の自由見学や実習の体験ができます。

- 授業・実習の見学
- ◆日時 11月16日(月)~20日(金)  
午後1時30分~4時
- 実習体験
- ◆日時 11月21日(土) 午前9時30分~午後4時
- ◆場所 県立浦添職業能力開発校
- ◆問合せ先 県立浦添職業能力開発校  
☎098-878-5627  
☎098-879-2560

### 介護サービス業で グッドジョブフォーラム

介護マンガ「ヘルプマン」のくさか里樹さんによる基調講演やトークセッションを行い、介護事業の現状や課題についてお話しいたします。

- ◆日時 11月24日(火) 午後2時~4時
- ◆場所 那覇市ぶんかテンプス館大ホール
- ◆定員 250名 どなたでも参加できます。入場無料
- ◆問合せ先 県産業政策課雇用創出戦略スタッフ室  
☎098-866-2324

状況を見て「今日は話をするだけ」とか「少しずつ一緒にやろうね」と呼びかけて、臨機応変に対応します。患者さんの死に直面した際はとても落ち込みますが、気持ちを切り替えて一人でも多くの患者さんのために役立つと自分自身を励まします。患者さんの回



後輩とは  
気軽にいろいろ  
話します。

- 復や笑顔、「ありがとう」という言葉がやりがい。専門学校時代の仲間や家族の存在も心の支えですね。
- Q** 今後の目標は?
- A** 常に患者さんに最適な治療を模索しながら勉強や研修などを重ねていきたい。より高度な認定作業療法士や、患者さんの住み良い自宅生活を提案する福祉住環境コーディネーターの資格取得もめざしたいですね。
- Q** 職場の人間関係を円滑にする秘訣は?
- A** 朝はなるべく早く出勤して人の動きを良く見るように心がけ、後輩には自分から声をかけて質問しやすい雰囲気を作っています。上司は作業療法士として十五年の経験を持つ大先輩。わからないことは相談し



- たり指示を仰いだり、全面的に信頼しています。
- Q** 同じ道をめざす人へ経験の中からアドバイスを!
- A** 介護を二年間、作業療法を四年間学んでも、現場ではまだまだ知識や経験が足りないかと痛感します。学生のうちに何でも貪欲に学んで欲しい。レベルの高い人と勉強すると自分の能力も向上します。仕事とは生涯学習だと思えますね。

#### 上司からもヒトコト



平常心で冷静に業務に取り組む姿勢を高く評価。洞察力・表現力を磨いてさらに成長して欲しい。

田場は今年から入院部門のリーダーを担い、今までとは違う多角的な視点や人間関係の構築で苦労もある中、順応に努力しています。患者さんの多くは人生の先輩。作業療法ではその気持ちに寄り添う感性が大事で、チーム医療には接遇やコミュニケーション能力も必須。今後も忍耐強く結果を作り上げ、共に達成感を感じていこう!

社会医療法人 敬愛会 中頭病院 ちばなクリニック  
リハビリテーション科 リハビリテーション主任 上地安寛さん

# 仕事現場ウォッチング

興味のあるシゴトはあるけれど、その実態がよくわからない。やりがいや本音、現場の空気をもっと知りたい!そんな思いに応えてさまざまなシゴトをレポート! ヒントはいつも現場にありました!

## ●今月のシゴト・ターゲット「リハビリテーション医療・福祉のシゴト(作業療法士)」

社会医療法人 敬愛会 中頭病院 作業療法士 田場 辰典さん(28歳)

### 作業療法士のシゴトとは

障害を負った人の社会復帰のための日常生活動作の自立を手助けするシゴト。いわば「心と身体のリハビリのプロ」。

病気やケガで身体機能に障害を負ったり、老年期の障害のある人に対し、病院や介護福祉施設などで社会生活への復帰を目的に治療や援助を行うのが主な仕事。「食べる」「着る」といった生活動作訓練、手芸や工作、音楽などのプログラムを用いたさまざまな作業療法を通して、身体機能の回復や維持を図ります。患者の状態や段階に応じたゴールを決め、「一緒にがんばろう」という精神面でのサポートを行うことも大切。心に寄り添うためのコミュニケーション能力も求められます。作業療法士はOT(オキュペーショナルセラピスト・Occupational Therapist)とも呼ばれる国家資格。作業療法士養成校などを卒業後、国家試験に合格することが必須です。

#### PROFILE 田場 辰典さん



1981年宜野湾市出身。高校卒業後、沖縄アカデミー専門学校で介護を2年間学び、琉球リハビリテーション学院作業療法学科へ入学。4年間(現在は3年間)の在学中に作業療法士国家資格を取得し、2005年社会法人敬愛会中頭病院へ就職。入院患者の心と身体のリハビリを担当。勤続4年目。



患者さんの回復が作業療法士の喜びです。

- Q** 作業療法士になろうと思ったきっかけは?
- A** 介護の専門学校の実習で患者さんに接する中、「もっと深く関わり、役に立ちたい」という想いがふくらみ、さらに四年間学んで作業療法士の国家資格を取得しました。理学療法士の叔父の影響もありますね。
- Q** 現在の仕事内容は?
- A** 症状が急変しやすく生命の危険性もある「急性期」の入院患者

- Q** 一日の平均的なスケジュールは?
- A** 入院患者さんの朝食に合わせ、午前八時半より業務がスタート。食事や洗顔、トイレや入浴など日常の作業を補助しながらリハビリを行い、一人に約四十分、一日十名弱の患者さんを担当。業務終了後も勉強会や資料作成などで残業することもあります。
- Q** 仕事の苦労ややりがいは?
- A** 患者さんの症状や性格はさまざま。決して無理強いせず、